

あおぞら

発行：愛知県被災者支援センター

住所：名古屋市中区三の丸3-2-1

愛知県東大手庁舎1階

TEL：052-954-6722

FAX：052-954-6993

開館：月曜～金曜 10時～17時



Merry Christmas & Happy New Year!

メリークリスマス



ありがとう



Merry Christmas



皆さま、どうぞ良いお年を!

《もくじ》

- P1. 表紙絵(芋ほり)ほか
- P2. 絵手紙贈呈式(あま市 小・中学校)
- P3. 濱田農園交流会・芋掘り
- P4～5. 甲状腺エコー検診&交流相談会
- P6. 多文化共生・外国人避難者支援
- P7. 意見交換会
- P8. イベント情報、クリスマス/お正月リース、カナさんのハムサンド、編集後記

絵手紙贈呈式・2019 「あま市の児童、生徒から、絵手紙をいただいて」



毎年恒例の、あま市内全ての小・中学校での取り組み「愛知県に避難されている方に寒中見舞いの絵手紙を送ろう!」の贈呈式が12月13日(金)にあま市役所にて行われ、避難者2名の方にご出席いただきました。

3.11の大震災の記憶が、世間から忘れ去られようとしている昨今です。「私たちはあ



なたたちを忘れていません!」と、心強いメッセージを絵手紙に込めて励まし続けてくださっている、あま市の小・中学生、関係者の皆様、ありがとうございます。今日は直接絵手紙を頂戴いたしました。会場はあたたかい雰囲気、私のつたない話に微動もせず、耳を傾けていただきまして、大変恐縮しました。

初めて絵手紙をいただいた当時は、前向きになろうという意欲が低下していた時期でした。深い苦悩の日々を過ごしていた時、あま市の小・中学生の皆様から絵手紙が届きました。心に沁みこむ一枚一枚の文面に、私は嬉しくて幸せな気持ちに満たされました。「忘れられていないんだ…。こんなに温かい心で見守ってくれている人たちがすぐそばにいてくれる。あたたかい手で背中を押してくれている人たちがいる」と感じました。立ち上がる意欲の源の一つになっていると思います。

今日改めてお目にかかり、皆様の穏やかな表情、キラキラ輝いている瞳に心を打たれて、感謝の涙があふれました。あま市の皆様にご心からお礼申し上げます。(宮城県大河原町→一宮市 押田準子)

東日本大震災から8年と9ヶ月。12月13日(金)にあま市役所のホールにおいて、絵手紙(3,900枚)の贈呈式が行われました。ドアを開くと、私の目の前には、あま市の全部の小・中学校17校から、小学生と中学生一人ずつの代表と教師、教育長、校長など約40名の方が一挙に目に飛び込んできました。

「私たちは忘れません」、以前の絵手紙に書かれてあった児童の絵とその言葉が頭のなかに浮かび上がってきて、思わず目頭が熱くなってきました。「私たちは忘れません」、この言葉にどれだけ慰められたか、そして励まされたか。そして、むしろ私たち大人が次世代の子どもたちに対して、大きな「負の遺産」を残してしまった、という負い目(原発安全神話によって、それをうのみにして、54基もの原子力発電所を造ってしまった負い目)を強く感じながら、子どもたちに励まされるという複雑な心境をかかえ、この式に参加させていただきました。

大地震、津波、放射能汚染という複合災害に見舞われた、世界中でも類のない避難者の数は、愛知県だけでも、334家族、866名(12月13日現在)の方々がいらっしゃいます。その方々は、それぞれが特別な事情を抱えた、個別の悩みを抱えて、生きていらっしゃいます。多くは、誰にも打ち明けられない家庭の事情と人間関係に苦しんでいらっしゃいます。

その時、私の背中に避難者の一人ひとりの人生模様を感じ取りながら、3,900枚という絵手紙の重さを手で味わいつつ、「私たちは忘れません」という子どもたちの言葉を届けたいと思いました。(福島県南相馬市→名古屋市 尾子富夫)



*なお、今回贈呈された絵手紙は、2020年1月の定期便でお送りします。お楽しみに!

濱田農園交流会 12/8(日)

12月8日(日)の濱田農園の交流会は、寒さが心配されましたが、幸いと暖かく、サツマイモ掘り、玉ねぎ・にんにくの苗植え等の作業に、汗ばむほどでした。参加者は、7世帯14名(大人9名、子ども5名)にボランティア・スタッフを合わせて21名でした。

濱田農園交流会に初参加のご一家もあり、子どもたちは自然の中で元気に遊び、大人はおしゃべりや情報交換など楽しい時間を過ごしました。



子どもたちは、大きなお芋を土の中から力いっぱい掘り出していました。

大人たちの中には、「芋のツルの佃煮がおいしい!」という方に興味を引かれる人もいました。



お昼ご飯は、おにぎりと豚汁というメニューでしたが、他にもボランティアのたくさんの差し入れあり、皆でおいしくいただきました。



甲状腺エコー検診&相談交流会 @名南病院

12月1日(日)に名南病院(名古屋市南区)で甲状腺エコー検診@交流相談会を開催し、検診は18世帯50名(大人23名、子ども27名)、交流会には21世帯51名(大人26名、子ども25名)の参加がありました。甲状腺エコー検診(主催:愛知民医連)と交流相談会(主催:愛知県被災者支援センター)は、毎年2回会場を変えて開催していますが、今回は愛知県被災者支援センターからの呼びかけが功を奏して、検診の初参加が4世帯11名ありました。

検診は医師・検査技師・看護師などの医療関係者19名、交流相談会では医師・保険医協会・臨床心理士・弁護士・在宅保健師、多文化ソーシャルワーカー、マッサージ師などの専門家の他、高校生のボランティア7名など、併せて25名のご協力をいただきました。

<医療関係者の打ち合わせ>



アンケートから、参加者の声(掲載を了承していただいたものの中から)をご紹介します。

【甲状腺エコー検診について】

○(初参加)とても安心して検診を受けることができました。

皆さまがとても寄り添って下さっていることがすごく伝わりました。とてもありがたく、嬉しかったです。今後は定期的に受けようと思います。

○(5回目)子どもが受けて、前回と変わらなかったのも、安心しました。福島県のエコー検診だと、医師からの説明がなく、書面上だけだと不安になるので、詳しい説明で安心しました。私は結節有りなのですが、「今回も変わらず」だったので、良かったです。

また受けさせていただきたいので、よろしくお願いします。

○(2回目)休日にもかかわらずご準備いただき、ありがとうございました。病院、スタッフの皆様には感謝申し上げます。前回の検診結果と比較してどうだったのかがわかると、なお良いと思いました。

○いつも来ると安心して帰れるので、ありがたいです。とても丁寧に検査して下さい、本当にありがとうございます。

【甲状腺学習会】

○甲状腺だけではない、人生と社会の問題も含めて考えていくべきだという考えに、とても共感しました。そういう考えの先生の話聞いて、大変心強く思いました。

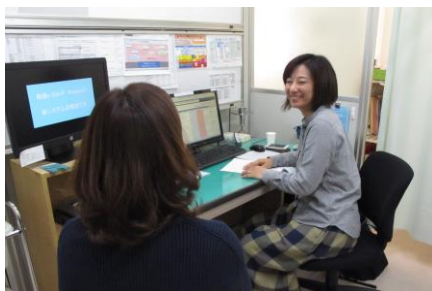
○知識・理解が深まりました。いつも学習会に参加出来ていなかったのも、今回とても勉強になりました。ありがとうございます。

その他に、個別に相談したい、時間がちょうどよかった、エコー検診の判定結果の説明が聞けてためになった、等でした。

<甲状腺エコー検診の様子>



<医師から検査結果・診断を聞く>



<早川医師による甲状腺の勉強会>



＜ボランティア参加の中部大学春日丘高校インターアクトクラブ＞



【交流相談会「みんなの場」】

- とてもあたたかい雰囲気が良かったです。食材等お気づかいいただき、ありがとうございます。このようなあたたかい検診&交流相談会が、末永く続いてくれるとうれしいです。
- 美味しいお弁当をありがとうございました。子どもも、いつも食べない煮物もパクパク食べていました。
託児コーナーで、子どもがいろいろな作品を作れて、とても喜んでいました。高校生のボランティアの方々、ありがとうございました!!
- 毎回対応良くしていただいて、本当にありがとうございます。お弁当の産地や食材のメモがとてもうれしかったです。
- なかなかゆっくり話すことができませんでしたが、今日は子どもも離れ、いろいろお話ができたので、とても楽しかったです。
- 今回子どももすごく楽しかったようですので、変わらず開催していただけるだけで、本当にうれしいです。
- 産地が記載してあり、安心して食べることができて、とても良かったです。おいしかったです。

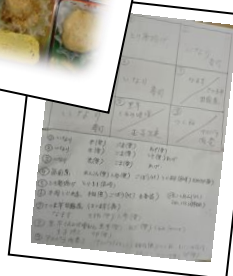
＜託児コーナー：ママ達も安心＞



＜癒しコーナー：ビーズ細工！＞



＜癒しコーナー：マッサージ＞



＜昼食：地元食材のお弁当が大好評＞



寄稿 多文化共生・外国人避難者支援 (神田すみれさん)

愛知県に避難している外国にルーツを持つ世帯はおよそ 15 世帯あり、愛知県被災者支援センターでは中国人、フィリピン人、インドネシア人、韓国人等の方々を支援しています。問題を抱えて困っていらっしゃる場合は、外国人をサポートしている NPO・外国人ヘルプライン東海や多文化ソーシャルワーカーの通訳等の助力を得ながら個別に訪問する場合があります。今回は、日本で暮らす外国人に詳しい多文化ソーシャルワーカーの神田すみれさんに寄稿いただきました。

現在、愛知県に避難している外国にルーツをもつ世帯は 15 世帯 (60 人ほど) です。日本国籍でない人、名前から外国人だとわかる人もいれば、帰化をした日本国籍の人、日本の通称名で登録している人は、名前をみるだけでは外国にルーツのある人だとはわからない人もいます。

外国人も日本人も同じ「人」ですから、災害時、そして避難後に抱える困難や課題は同じ、必要とする支援も同じです。しかし、外国人の場合は、言葉や制度の壁があるため、必要とする支援にたどり着くことが難しい場合があります。

災害が起こり、地域の繋がりや仕事を失う時、避難をして新しく生活基盤をつくる時に、必要とする情報を得て、繋がりがない中で新しい生活基盤をつくる大変さは、日本人も外国人も同じですが、外国人の場合は、国内に実家や親せき等、頼れる人がいないことが多く、新しい地域での繋がりをつくるのに日本人以上に時間がかかります。困った時にどこに相談にいけばいいのかわからない、それを聞ける人が周りにいなかったり、自分で調べるための日本語力が不足していると、困りごとを解決することが難しく、問題が大きくなってしまいうこともあります。



外国の人だと言葉の壁がある、と感じることがあるかもしれませんが、日本に長く住んでいる人は、簡単な日常会話で話ができ、平仮名や片仮名が読める人もたくさんいます。難しい言葉を簡単な表現に変えたり、漢字にフリガナをつけたりすることで、言葉の壁を取り払うこ

とができます。例えば、「読書→本(ほん)を読(よ)む」「避難する→逃(に)げる」「申請する→申(もう)し込(こ)む」等です。

日本では、子どもの頃から避難訓練を経験していますが、地震のない国から日本へ来た人は、地震の揺れを体験したことがなく、地震の際にどのような行動が必要かを具体的には知らない人も少なくありません。災害時にどうすればいいのか、具体的な情報を、外国の人が受け取ることができる方法で届けることが求められています。

そして私たち 1 人ひとりが、海外から来て日本に暮らしている人たちと、出会い、話をする機会を増やすことで、壁を取り除かれて、顔の見える関係をつくることができます。交流会で、地域で、海外から来て日本に暮らしている外国の人を見かけたら、是非話しかけてみてください。ボイストラ・VoiceTra(多言語音声翻訳アプリ)※や Google 翻訳等のアプリを活用して、会話をするのも面白いかもしれません。

※ 独立行政法人情報通信研究機構 (NICT)

<http://voicetra.nict.go.jp/>

・外国人ヘルプライン東海

TEL : 090-3968-5971

E-MAIL:

fhelpline.info@gmail.com

・あいち多文化ソーシャルワーカーの会

<https://www.facebook.com/tabunkasocialworker/>

・多文化防災ネットワーク愛知・名古屋

<https://www.facebook.com/saigainet.aichi.nagoya/>

・愛知県災害多言語支援センター (災害時のみ)

TEL : 052-961-8744



愛知県被災者支援センターは、12月4日(水)愛知県社会福祉会館を会場に「第二回東日本大震災受入被災者支援・意見交換会」を開催し、愛知での今後の支援の在り方を話し合いました。テーマは「一人ひとりに寄り添った災害被災者への支援」です。一人ひとりに応じた支援を「災害時ケースマネジメント」の考え方で生活復興支援制度に位置づけている山形県・鳥取県を招き、市町村・社会福祉協議会・専門家・支援団体・ボランティア等 35 名が参加しました。

【山形県：防災くらし安全部、復興・避難者支援室の工藤明子室長より報告】

「避難者ケースマネジメント事業の現状と課題」

山形県には宮城、岩手、福島など五県から 339 世帯が避難しており、①避難者の現状把握(アンケート、全戸訪問、意見交換会)、②情報発信/相談支援・交流促進、③自立した暮らしのための支援、④困難ケースに対応する支援体制づくりを進めています。全戸訪問は「情報提供、生活状況の把握、適切な相談機関につなげること」を目的に、「新米を届けながら 2018 年度は 8 割の世帯を訪問」しています。母子避難が多く、生活面での苦労や二重生活で生活費がかかる、精神的不安定などから福祉部門や子育て部門とも連携しています。先行き不透明のなか、「支援が必要な人の個別化・多様化する課題に合わせて地域資源や制度を組み合わせた支援」を検討するため、今年度から「避難者ケースマネジメント研修」を市町村を主体に実施し、県は研修アドバイザーとして社会福祉士等を派遣しています。この 8 年の活動は、これからの災害にも共通するものが多い。災害現場にどう生かせるかの視点で進めていきたい。

【鳥取県：公益財団法人とっとり県民活動活性化センター白鳥孝太さんの報告】

「平成 28 年鳥取県中部地震の生活復興支援」鳥取県は『鳥取県防災及び危機管理に関する基本条例』で、災害時ケースマネジメントを位置づけています。これは、鳥取県中部地震で被災された家庭の“困りごとが聞こえない・見えない”、“支援のためには縦割りではなく、担当課間の連携が必要”、“地域・自治会・行政・専門をつなぐ仕組みがない”、“被災者を支

援、調整する主体がない”という課題から始まっています。

住宅被害に遭って罹災証明を発行したが、住宅再建制度を未申請の世帯約 900 件に対し支援制度を郵送・訪問・電話で周知するとともに、生活復興支援チームによる相談と対応をおこない、ケース検討会議も開催しています。これから大事なこととして、「平時からの災害ケースマネジメントへの理解」「地域と行政と専門家をつなぐ仕組み」「被災者(要支援者)を連携して見守れる体制づくり」「課題を地域もしくは行政だけに押し付けない仕組み」が必要。

【グループワーク：3 グループでの話し合い】

愛知県ではこれまでの 8 年間、愛知県被災者支援センターが市町村と連携して各世帯訪問を行い、社会福祉協議会や専門家を含めた個別支援の体制をつくり、各種相談会を開催し、「要支援世帯」にも継続して関わっています。今後はどのような体制が必要かについて、各グループからは「支援のためにはこれまでの信頼関係が重要。専

門家のつながりは欠かせない」「生活に困っている家庭の相談をつかむきっかけは市役所だが、心のケアなど社協や専門部署と

の連携ができるか」「災害が多発しており、被災者支援センター体制はより必要になるのでは」等の意見が出ました。

【愛知県被災者支援センター】「愛知でも専門家と支援の現場に関わる方から出された意見を基に、これからの仕組みをつくっていきたい」



1・2月イベント情報

※イベントの一部を掲載しています。

開催日	イベント名	内容（主催など）	最寄駅
1月19日(日)	餅つき・石窯交流会	皆で餅を搗き、各自の手作りピザを石窯で焼きながら交流します (主催：NPO 風舎)。	名鉄本線「本宿」 駅下車、くらがり 渓谷行バス 30 分
2月1日(土)	第8回田原市被災者支援 交流会 田原市あったか鍋パーティー	地元のおいしい野菜・魚のお鍋と ビンゴ大会の景品は田原の名産 のお花等。(主催：田原市社協他)	豊橋鉄道渥美線 三河田原」駅下車 徒歩 3 分

クリスマス/お正月リース

11月の「あおぞらカフェ」で作ったリース。
クリスマスやお正月飾りのご参考にどうぞ！



《ミニコラム》 カナさんの手作りハムサンド・レシピ

我が家でサンドイッチが食べたくなったら…8日前にリクエストしなければなりません。なぜなら…

- ①豚もも肉などの塊肉を買う。
- ②豚肉の 8%の塩/ペッパー/砂糖(塩の 1/3 程)/ローリエ、ローズマリーなどで作るソミュール液(塩をベースにスパイスとハーブを酒や水で煮立てた液)に 7 日間浸ける。水は肉がしっかり浸かる量。
- ③一度流水で肉を洗って、ボールにたっぷり水を入れて肉を漬け込み、塩抜きを 8h する。
- *②③共に、冷蔵庫内で保管すること！
- ④キッチンペーパーで水気を取る。
- ⑤たっぷりの湯を沸かし、肉を入れた時 60～70℃になるように調節、温度を保ちながら 1.5h ゆでる。
- ⑥フライパンやグリルで表面を焼く。サクラのチツ

プを入れて、香り移しながら焼く(火は通っているので、焼きはお好みで OK)。

《ハムの出来あがり!!》

- ⑦ソミュール液に肉を浸けて 5 日過ぎた頃に、果物等の酵母を採取し、ストレート法でパンを作る。

* 気温が 30℃ほどある夏しかムリ。梨がおススメ。玄米からの酵母は味があっさり。セモリナ粉も OK。冬は天然酵母をお店から購入。

《パンの出来あがり!!》

- ⑧キャベツやレタスを準備。全てを冷蔵庫で冷たくして切り分ける。各自で好きなものを挟んで、

《いただきま〜す!》

以上、めちゃくちゃ時間がかかるため、ほぼリクエストは却下されます。私自身がどうしても食べたくなった時のみ、休日のランチに登場します。ゆっくり時間の余裕がある時だけですが、「私たちの身体は食べ物からできている」と考えながら、命と生き物について、家族で会話も楽しめます。

《編集後記》

- 向こうまで ずっと先まで 落ち葉道 雨上がりたる 里山歩き (T.H)
- 年末に向けての多くの招待企画に感謝です!!どのイベントも最高! それらの交流会では子どもたちの笑顔、それを見るお父さんお母さんの笑顔も最高です。来年も笑顔でお会いしましょう! (I.S)
- 災害の多いこの一年。被災地の皆さんが早く元気な生活を取り戻されますように祈りつつ… (T.K)